



三愛精神

CONTENTS

近藤会長のひとりごと

市村清と故郷佐賀について 1

創業者・市村清物語 “人となり”シリーズ

大相撲 テレビにくぎ付けで大鵬に夢中 2

特集

知れば知るほどスゴイ!!

発酵食品 3

わが社・わが街

テクノレント・東京都港区芝浦 編 8

CSR & CSV だより-2- 市村自然塾 九州 11

Group Information 12

三愛会プラザ 16

三愛会会員会社一覧 18

表紙の言葉

発酵食品について調べると、私の好きな食べ物ほとんどそうなんだ…と思うほど身近でびっくりしました。食べ物をさらにおいしくするなんて、まるで魔法のようですね。
(作者 佐田みそ)

近藤会長の ひとりごと

市村清と故郷佐賀について

先日、佐賀県知事の山口祥義氏と会う機会を得た。

その時、山口知事は佐賀に伝わる葉隠の志と市村清の考え方に通じるものがあるかと話された。そして一枚のコピーを手渡された。コピーには「現代に通じる『葉隠』の志」とあった。

・大事の思案は軽く 小事の思案は重く

(日々覚悟を持って考えておき、大事には素早く判断せよ)

・只今がその時 その時が只今なり

(何かが起きてからでなく、何かが起きることを常に想定せよ)

・人が黒きと云わば 黒きはずにてはなし

白きはずなり 白き理があるべし

(人の理屈をうのみせず、逆の理屈を考えると一段上の道理が見えてくる)

(『葉隠聞書』より)

知事の質問に即答は避けたが、創業者の遺した著作や言葉を振り返ると「なるほど!」と思うことがあった。

市村清の座右の銘は「人の行く裏に道あり花の山」という千利休の句であるが、下の句は「いづれを行くも散らぬ間に行け」である。知事の言われるように葉隠の志に通じるものがあるように思われるが、皆様はどう思いますか?

また「人の逆をいく法」という言葉も残しているが、それらの言葉や言動の中にも葉隠の志に通じるものを感じる。

市村清を育てた佐賀に残る葉隠の志、その故郷に人一倍の思いを抱き、さまざまな足跡を遺した市村であるが、その人間としての基礎は幼少期を過ごした、佐賀の葉隠の志にあったのかもしれない。